

古代の人々は、場所や景物を見て、 どのような意識で歌や詩を 詠んだのか。

基礎教育センター
講師

田中 真理



研究シーズの紹介

2019年、元号が「令和」に改められました。それを契機に、日本最古の和歌集である『万葉集』に注目が集まり、「令和万葉ブーム」が起こりました。その結果、太宰府の観光客は一気に数倍に膨らみ、関連書籍も飛ぶように売れたといえます。では、「令和」の出典となった『万葉集』の歌には、人々のどのような願いや思いが込められているのでしょうか。「令和」の時代に生きる我々は、その文化や知恵を自らの糧とし、そして、今後よりよ

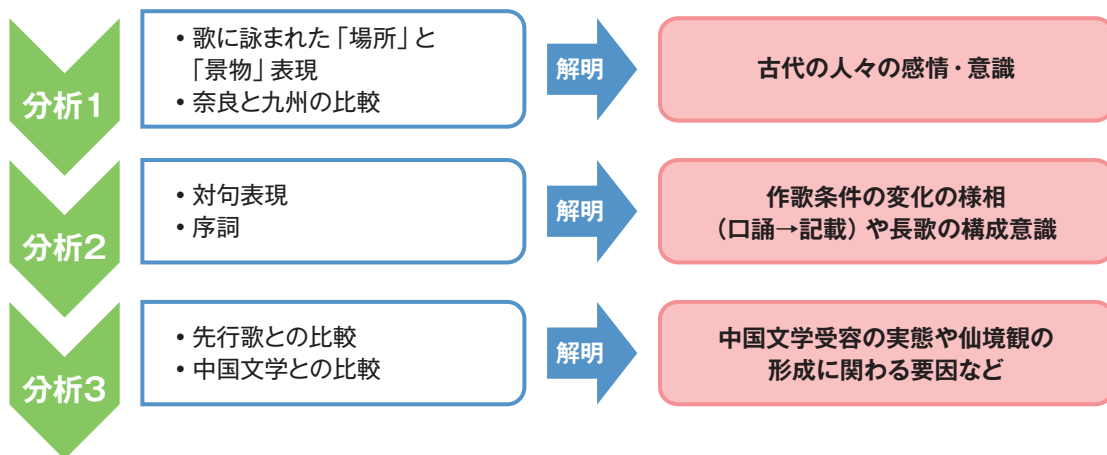
い社会にするためにそれらを活用していかなくてはなりません。

本研究では、古代の歌や詩に詠まれた「場所」や「景物」の表現が、同時代的にどのような意味を持っているのかについて考察しています。それにより、人々の感情・意識を明らかにすることはもとより、作歌条件の変化の様相や長歌の構成意識を明らかにし、新たな視点から古代長歌史を構築することに取り組んでいます。



場所や景物表現、修辞の分析

- 歌に込められた人々の意識、古代の人々が、どのような手段で歌を詠んだのか（口誦・記載）、長歌がいかに構成されていたのか、を明らかにすることが可能である。



期待される活用シーン

- 地域活性化を図りたい。
- 観光産業を発展させたい。



地域活性化・観光産業の発展に必要なアイデアの基盤となる人文的教養を身に付けることができる。



大宰府政庁跡

- 元号「令和」の由来や各種儀礼の歴史を知りたい。
- コミュニケーション力・創造力を向上させたい。



知識を得ることで視野を広げ、柔軟な発想力と、他者を理解する力を身に付けることができる。



その他の研究テーマ

「万葉集」の歌における説話的意匠の形成
「万葉集」の作歌をめぐる都市交通史的研究